

14.5-127



1200501214350

14.5  
127

火蹟名勝天然紀念物調査報告 第五卷



始



14.5

127

昭和三年三月

史蹟名勝天然紀念物調査報告

第五卷

山口縣

緒言

一 本書第一卷ニ於テハ史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ依リ指定ヲ受ケタル  
一 史蹟「松下村塾 吉田松陰幽囚舊宅」「名勝」錦帶橋「天然紀念物」竹  
柏自生北限地 樟ノ森 秋芳洞 景清洞 大正洞 中尾洞 ヲ、第二卷ニ於  
テハ「天然紀念物」白蛇棲息地 鶴渡來地 ヲ、第三卷ニ於テハ「名勝」長  
門峽 ヲ、第四卷ニ於テハ「史蹟」反射爐 「天然紀念物」明神池 エヒメ  
アヤメ自生南限地帯 檜ノ森 ヲ掲ケタリ

一 本書第五卷ニ於テハ「名勝及天然紀念物」青海島 ヲ掲グル事ト爲セリ

一 其他今日迄指定ヲ受ケタルモノニ 常榮寺庭園 夏蜜柑原樹 倭島 石柱溪  
橋自生北限地 干珠樹林 滿珠樹林 幸松 タヌキ棲息地 權自生群落地  
法泉寺榎柏 平川村ノ大杉 地獄臺 須佐灣 等アレバ是等ハ漸次卷ヲ追フ  
テ報告セントス



一 本書ハ本縣史蹟名勝天然紀念物調査主任岩根又重ノ調査執筆セルモノニシテ  
挿入ノ寫眞モ同人ノ撮影セルモノナリ。

目次

一	指定年月日ト指定地域	一
一	位置及廣袤	四
一	概況	六
一	沿革	七
一	交通	一二
一	探勝方法	一四
一	名所	一六
	南面	一六
	西面	一七
	北面	三三
	東面	四〇

# 史蹟名勝天然紀念物調査報告 第五卷

## 一三 名勝及天然紀念物 青海島

### 指定年月日卜指定地域

指定年月日 大正十五年十月二十日

指定地域 仙崎町字紫津浦 一六一番ノ一實測三町步

同字櫓渡 一六四番内實測五反步、一六六番内實測四反三畝步、一

六五番、一六七番内實測一反步、一六八番内實測八畝步

一六九番内實測四畝步、一七〇番内實測二反五畝步、一

七一番内實測二反五畝步、一七二番内實測三畝二十步、

一七三番、一七四番内實測五畝步、一七五番内實測四畝

步、一七六番内實測六畝步、一七七番、一七八番内實測



二反二畝步、一七九番内實測二反六畝步

同字長濱 九六一番ノ七内實測一町二反步

同字和田 一一七五番ノ四内實測六反步

同字冲浦 一一七五番ノ三内實測三町步

同字高麓 七〇八番

同字三島浦 七〇一番、七〇二番、七〇三番、七〇四番、七〇五番  
一一七七番

同字笹島 七〇六番、七〇七番

同字大平山 一一七五番ノ一内實測三町步

同字積ヶ迫 六九七番内實測四反步

同字大磯台 六九六番ノ二内實測五畝步

同字水谷 六九四番内實測六反步

同字花津浦 七三三番ノ四

同字並木 六九三番、六九三番ノ一、六九三番ノ二

同字水海濱土手 七三三番ノ二

通村字笹島 一番内實測八畝步

同字大島 二番内實測三町五反步、三番内實測二町五反步

同字大山 六番ノ一内實測一町步

同字番山 一番ノ一内實測三反步

同字南堂 二番内實測一町五反步

同字小浦 三番ノ一内實測五反步

同字日比木 一九番ノ一内實測三反步

同字中所 二四番ノ一内實測一町五反步、二四番ノ二内實測三反步

同字山島 二四番ノ三内實測一町七反步、二四番ノ四内實測七反步

同字山島 三二番ノ一内實測三反步、三二番ノ二内實測五反步、三

二番ノ三内實測二反五畝步、三二番ノ四内實測五反步、

三二番ノ五内實測三反步、三二番ノ六内實測二反步、三

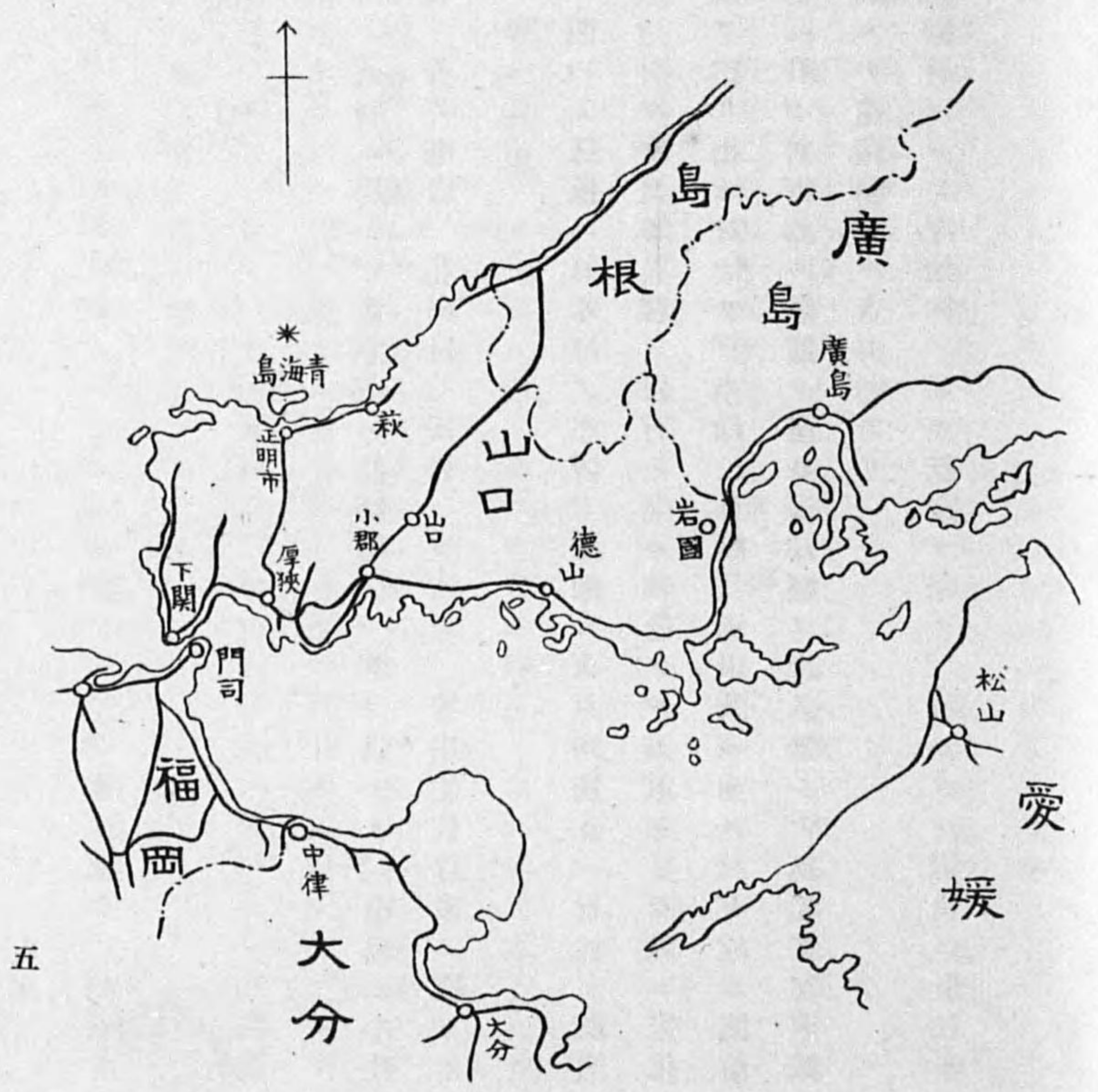
二番ノ七内實測三反步、三二番ノ八内實測一町五反步

即チ青海島ノ名勝及天然紀念物トシテ指定區域ハ島ノ東面、北面、西面ト附屬島嶼及岩礁ヲ含ムモノナリ

位置及廣袤

青海島ハ山口縣大津郡ノ北海岸ニ近ク横ハル日本海上ノ島ニシテ本陸ニ最モ近キ所ハ瀬戸ヲ距テ、其距離僅ニ一町ニ過ギズ、其地形東西ニ狹長ニシテ南岸ニハ出入多シ、島ノ南岸ハ仙崎灣及深川灣ニ面シ北岸ハ渺茫タル日本海ニ面ス  
東西ノ延長二里、南北ノ幅最モ廣キ所三十町、幅最モ狹キ所二町、周回十里、面積一千三百五十五町、本島ニハ數個ノ屬島ト無數ノ岩礁アリテ是等ヲ加ヘテ總面積約一千四百町步ナリ

青海島位置圖



### 概況

青海島ノ東半部ハ通村ニ屬シ、西半部ハ仙崎町ノ一部ヲ爲セリ、全島 中生代ノ砂岩 輝綠凝灰岩 石英斑岩 花崗岩 玢岩 玄武岩 等中生代以後ノ種々ノ岩石ヨリ構成セラレ

島ノ 東 北 西 ノ三面ハ日本海ノ怒濤ニ浸蝕セラレ到所ニ 石柱 洞門 斷崖 絶壁及海礁 ヲ造レルモ是等異種ノ岩石ハ夫々特色アル海蝕ヲ受ケ茲ニ變化ニ富メル嵩高ナル奇觀ヲ造リ出セルナリ、南岸ハ仙崎及深川灣ニ面スルガ故ニ波穩カニシテ略々瀬戸内海ニ於ケルガ如キ状態ヲ呈シ海岸線ノ出入著シク風光甚ダ明媚ナリ、又タ島ノ西南隅ニハ遺蹟湖タル青海湖アリ

島内暖地性植物鬱蒼トシテ原始林ノ如キ状態ヲ保チ、稜々タル岩角ニ奇松辛フシテ點綴スルヲ見ル

森林中ニハ種々ノ動物棲息シ、近海ニハ鯨族及廻遊性魚屬ヲ見ル

北岸及西岸ハ人煙ニ遠ザカルモ南岸ニハ人家ハ所々ニ集團ヲ爲シ 通浦 大日比 大泊 青海 等ノ諸部落アリ

最高點ハ仙崎町ニ屬スル島ノ西北隅ナル海拔三百二十米突ノ高山ノ頂上ニシテ東方ニテハ通村高崖ノ頂上二百四十九米突ノ地點ナリ

### 沿革

青海島ナル名稱ハ「青海原ニアル島ナルガ故ニ此名アリ」又タ「青海湖ノアルガ故ニ湖名ハ引テ島名トナル」等ノ説アルモ長門ノ北海ハ往時阿武海（アブミ）ト呼ビ青海島ハ阿武海島（アブミシマ）ナルガ如ク、今ノ大津郡ノ地ハモト阿武國ノ一部ナルガ故ニ阿武海島ノ青海島ニ轉訛セルモノナルベシ

青海島ノ名勝ノ最モ古ク物ニ表ハレタルモノハ慶長五年ノ檢地帳ニ之ヲ見ル

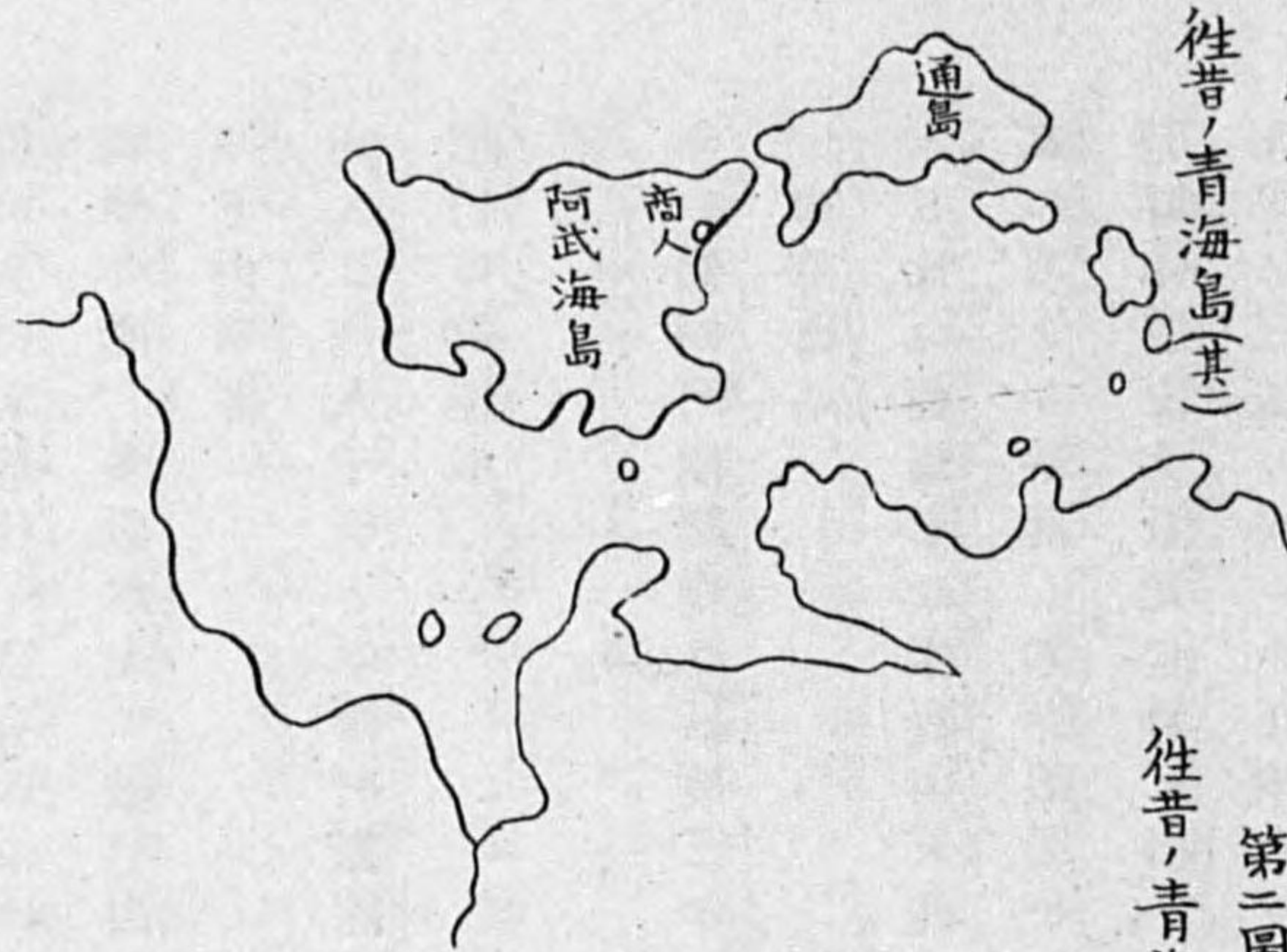


本島ノ一部ナル通村地方ハ部分的ノ名稱アリシモノ、如シ、即チ通村向岸寺所藏應永ノ大般若經奥書ニ通島海雲山西福寺ノ文字ヲ見ル

青海島ノ往昔ハ大體ニ於テ二個ノ島ナリシガ（第一圖）、潮流風波ノ關係ニ依リテ本陸ヨリ砂洲長ク北方ニ伸ビテ現在ノ仙崎市街所在地ノ地盤ヲ造リ遂ニ青海島ノ最南端ナル王子山ニ接續セリ、此際現在ノ紫津浦灣ハ海峡ニシテ日本海航行ノ船舶ハ外海ヨリ入り來ツテ寄泊シタル爲メ商人ノ地大ニ繁榮ヲ極ム（第二圖）、然ルニ其後現在ノ仙崎市街ト王子山トノ間ニアル砂洲ハ切レテ瀬戸トナリ紫津浦ノ海峡ハ今日ノ船越シノ地點ニ於テ砂洲ニテ全ク閉塞シタレバ商人ノ地ニハ船舶寄泊スルコト能ハズ漸次零落シテ住民ハ仙崎又ハ大日比方面ニ移轉セリ、此時大日比ノ西圓寺モ商人ヨリ移轉セシモノナリ（第三圖）

仙崎町祇園社縁起ノ一部ニ  
昔青海島の内王子山と云ふに祇園の社ありて地續きに往來なりしが建保四年の秋暴風の爲に神祠破壊しければ承久元年新廟を今の地に改む、其後何時ともなく洲崎崩れ落ち迫門となりたれば瀬戸崎の名となり云々

第一圖



第二圖



第三圖



風土注進案ニ

紫津浦の内商人村と云ふ所は往古は繁昌の地にて人家千軒も有之候處、享祿天文の間に大に零落仕、富有のものは追々仙崎の地方へ移轉仕候由、又文祿慶長の頃朝鮮御陣の砌、多數水夫に被召出大半不罷歸、彼是にて家數纔かに残り居候云々

地下由來書ニ  
商人は商人千軒と申傳軒數餘多御座候へ共いづれ之時節に亡所仕候哉只今にては田畠計に御座候

同上ニ

今の仙崎町極樂寺は延暦三年の秋創めて佛堂を商人に建立す云々

大津郡誌ニ

大日比の西圓寺は本慶山天龍院と號す、もと眞言宗にして商人にありしが此地は天文の頃より零落し本寺頽廢せるより觀音尾に小庵を結で之に移せり、寛文八年上利其等本傳を大日比に移し後ち淨土宗の一寺に改む

此等ノ記録ハ果シテ正確ナルモノナリヤ否ヤヲ知ラザレドモ多少地形變換ヲ物語ル

資料ナルベシ

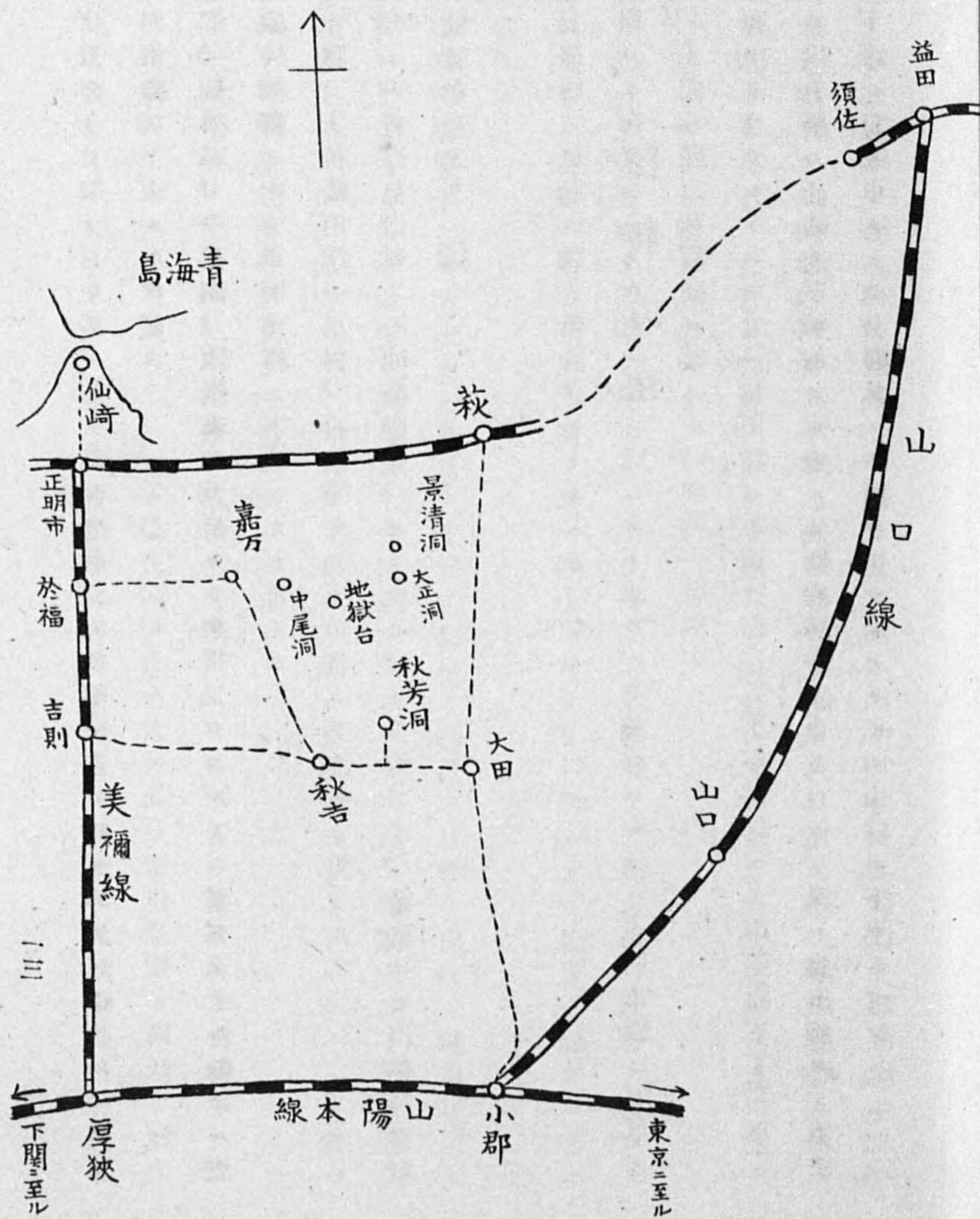
本島ハ元和年間馬ノ放牧場トシテ經營シタルコトアルモ南面ヲ除クノ外ハ總テ斷崖絶壁ナレバ牧馬ノ墜落シテ死スルモノ多カリシカバ何時トモナク廢止セラレタリ、然ルニ安政年中大庭源之進ナル士ニ再興セシメラレタルガ廢止セリ

本島ハ潮流及水道ノ關係ニ依リテ鯨族陸岸ニ近ク廻遊シ捕鯨業トシテハ甚ダ好位置ニ在ルガ故ニ往時ハ盛ンニシテ之ニ着手シタルコトアリシモ筋立テタル捕鯨業ハ延寶元年鯨組取立ニ初マル

本島ノ奇勝ハ古來漁夫ノ談話トシテ人ニ傳ヘラル、ノミニシテ未ダ實地ヲ知レルモノ殆ド無カリシガ明治三十四五年ノ頃ヨリ稀ニ探勝スルモノアリテ其豪壯雄大ナル風光ハ漸次人ニ傳ヘラル、ニ至レリ、然レドモ其當時大津郡方面ハ何レノ地ヨリスルモ峻坂嶮路ヲ踏破セザル可カラザルガ如キ交通不便ノ位置ニアリシガ故ニ之ヲ實查スルモノ甚ダ稀ナリキ

其後チ通村及仙崎町ノ有志ハ青海島保勝會ヲ設ケ切リニ宣傳ニ努メツ、アリシガ鐵道美禰線延長シテ正明市驛ノ設置ヲ見ルヤ本島ノ遊覽者頓ニ増加セリ

# 青海島交通圖



## 交通

青海島探勝ノ道筋ニ就テ概要ヲ述ブレバ左ノ如シ  
 山陽線ヨリ來ラントスル者ハ厚狹驛ニテ下車シ、美禰線ニ乗換ヘ正明市驛ニ下車スベシ、正明市驛厚狹驛間ニ要スル時間約一時間半  
 山陰線ヨリ來ラントスル者ハ益田驛ヨリ山口線ニ入り小郡驛ニテ山陽線下リ列車ニ乗換ヘ厚狹驛ニ下車シ美禰線ニ乗換ヘ正明市驛ニ下車スベシ、又ハ益田驛ヨリ須佐驛ニ下車シ自動車ニテ東萩驛又ハ萩驛ニ出デ夫ヨリ正明市驛ニ下車スベシ

大正十五年十月二十日史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ依リ本島ノ奇勝ハ「名勝及天然紀念物」トシテ指定セラレ、本島ノ南岸ナル大日比夏蜜柑原樹モ同法ニ依リ昭和二年四月八日「史蹟及天然紀念物」トシテ指定セラル、ヤ其名遠近ニ知ラレ遊覽者益々増加スルニ至レリ

秋芳洞方面ヨリ來ラントスルモノハ自動車ニテ美禰線吉則驛又ハ於福驛ニ出デ夫ヨリ正明市驛ニ下車スルヲ要ス  
 大正洞、景清洞、中尾洞、地獄臺 方面ヨリ來ラントスル者ハ嘉万ヨリ自動車ニテ美禰線於福驛ニ出デ正明市驛ニ下車スルヲ可トス  
 正明市驛ヨリ仙崎町迄一里弱、自動車十二三分間ニテ到達シ得ラル  
 仙崎町ニハ青海島遊覽ノ石油發動船、モーターボート等アリ、通浦ニモ汽船及多數ノ石油發動船アリ

## 探勝方法

探勝方法ニ二アリ

即チ第一方法ハ仙崎港ヨリ小舟ニ乘リ仙崎灣ヲ横斷シ大日比ヲ經テ紫津浦灣ニ入リ小山ヲ超ヘ紫津ヶ浦ニ出デ瀨叢ノ奇觀ヲ見ントスルモノニシテ紫津ヶ浦海岸ヨリハ

本島北岸ノ大勢ヲ望見シ得ベク且ツ春夏秋冬ヲ分タズ探勝ヲ企テ得ラル、此方法ニ依レバ途中ナル仙崎灣内ハ波甚ダ靜カナレバ船暈ノ癖アル者ト雖モ何等苦痛ヲ感ズルコト無キノミナラズ寧ロ風波アル日ヲ撰ベバ瀨叢ノ大岩柱ニ打寄スル怒濤ハ陸上ヨリ望觀シ得ラレ甚ダ偉觀ナリ  
 第二方法ハ島ノ全周ヲ回遊スルモノニシテ海上約七里ナリ、此方法ハ晩春ノ候ヨリ夏期ヲ主トシ晩秋ノ候ニ至ル期間ヲ最モ佳トスルナリ、然レドモ船暈ノ癖アル者ニハ適當セズ

島ノ全周ヲ巡覽セントスルニハ其日ノ干満ノ關係ト潮流ノ状態ト風向ト時刻ニ依リテ東廻ハリヲ可トスル場合ト西廻ハリヲ便利トスルコトアルハ勿論ナレドモ普通ノ場合ハ日ヲ脊ニシテ探勝スルヲ可トス、即チ午前ヨリ觀覽セントスルモノハ東廻ハリヲ可トシ午後ハ西廻ハリヲ適當トスルガ如シ

## 名 所

島内ノ名所ヲ一々洩レ無ク記載セントスルハ到底其ノ煩ニ堪ヘザレバ左ニ其ノ主要ナルモノヲ撰ビ島ノ東面、西面、北面、南面ノ四部ニ分テ左ニ之ヲ掲グルコト、セシ

### ◎ 南 面

○瀬戸 本陸ナル仙崎市街ノ北端ナル洲崎ト青海島ノ最南端ナル王子山トノ間ニアル海峡ニシテ其距離僅ニ一町ニ過ギズ、干満二時ニ當ツテハ潮勢稍々急ナリ、此所ハ往昔潮流ノ作用ニ依リテ砂礫ヲ以テ陸續キトナリシガ、中古砂洲ハ切レテ今ハ瀬戸ト一變セシモノナリ

○橋自生地 瀬戸ノ對岸ヨリ少シク東ニ偏シタル少丘中腹ニ當リ雜木林中ニ橋自生地アリ、此地點ハ史蹟名勝天然紀念物トシテ既ニ指定セラレタル阿武郡萩町越ヶ濱半島ナル笠山ニ於ケル橋自生北限地ニ次デハ最北ニ位スルモノナレバ此地點ハ該樹

分布ノ關係ヲ示ス貴重ナル地點ナリ

○王子山 瀬戸ノ北岸ニアル一小丘ヲ王子山ト云フ、此所ハ往時祇園社ノアリシ所ニシテ今ハ仙崎町ノ遊園地タリ、園ノ四周ニハ老樹鬱蒼トシテ茂リ山頂ヨリハ瀬戸ヲ距テ、仙崎市街全部ヲ瞰下シ右ニ深川灣左ニ仙崎灣ヲ臨ミ遙カニ一位ヶ岳連山ニ對シ風光甚ダ明媚ナリ

○大泊灣 狭長ナル灣ニシテ幅三四町ニ過ギザレドモ長サ十餘町ニ達シ水深カシ、風波高キ時ハ仙崎町ノ船舶ハ此所ニ來ツテ繫留ス、灣内ハ北國通ヒノ船舶寄泊スルコト多シ

○青海湖 本島ノ西南隅ニ近キ所ニアル瀉湖ニシテ水面十八町、池中ニハ鯉、鮒、鰻、イナ等ヲ産スルコト多シ、此湖ハモト海ノ一部ナリシガ風波ノ爲メニ長大ナル礫堤ヲ造リ海ト遮斷セシモノナリ、湖ノ北岸ニ數十戸ノ青海部落アリテ平家壇ノ浦敗戦ノ際殘黨ノ逃レ來レルモノ、遠孫ナリト傳フ、此湖ノ風光ハ青海部落ヨリ望ムヲ佳景トス

○水海濱土手 青海湖ヲ構成スル長大ナル礫堤ニシテ延長十町、幅十數間、高サ四

間許ノ整然タル堤防ノ如キ形狀ヲ爲シ巨大ナル礫ト砂トヨリ成ル、其上ニ老松枝ヲ交ヘテ繁茂シ就中特ニ巨大ナルモノ九百九十餘株ニ達ス、別名 波ノ橋立トモ云フ

○大日比 前ニハ波靜カナル仙崎灣ヲ控ヘ、後ロニハ綠林ヲ以テ被ヘル山ヲ繞ラシ氣候溫和、風光明媚ナリ、此所ハ人家數十戸ノ一小村落ニシテ半農半漁ヲ主トス、此地ニ有名ナル夏蜜柑原樹、西圓寺、法船庵、青蓮等アリ、灣内ニハ毎年期ヲ定メテ海豚ノ群集シ來ルヲ以テ有名ナリ

○夏蜜柑原樹 大日比ニ現存スル夏蜜柑原樹ハ安永ノ初年、此地ノ海岸ニ珍果一個漂着セルヲ該樹所有者ナル西本氏ノ祖先ちようナル婦人之ヲ拾ヒテ其種子ヲ蒔付ケタルモノ、發芽成育シタルモノニシテ該樹ハ弘化四年家屋改修ニ當リ工事ノ妨トナルコト少ナカラズトシテ根本ヨリ二尺五寸ノ所ニテ切去リタル臺木ヨリ二本發芽成長シタルモノナレバ今ハ幹二本トナリ樹高十八尺、枝張り四坪トナレリ、本樹ハ明治二三年ノ頃ヨリ十數年間連續接穂トシテ萩地方ノ需要ニ迫マラレ新芽ヲ剪截セルト且ツ老衰ノ結果ニテ今ハ極メテ貧弱ナル樹貌トナレリ、然レドモ尙ホ年々着果數十個ニ達ス

初メ同地方ニテハ之ヲ宇樹橋ト呼ビ何人モ食用ニ供シタルモノ無ク兒童ガ毬ノ代用品トシテ遊戲ニ用ヒタルニ過ギズ、然ルニ其後テ該果ハ夏期ニ當リ直徑二三寸ニ達シ芳香ヲ有シ果漿ニ富ミ酸味強ケレバ會々食醋ノ代用トナスニ足ルコトヲ知り茲ニ始メテ用途ヲ認メラル、ニ至リ宇樹橋ノ名ハ何時トモナク消ヘテ夏橙ト呼ブニ至レリ、該地方ハ僻地ニシテ日用品ヲ得ルニ困難ナル所ナレバ各戸食醋自給策トシテ是ガ栽培ニ着手セリ、然ルニ該果ハ冬ヲ越ユレバ直徑四寸前後トナリ食用ニ適スルヲ知レリ特ニ夏期ニハ人ノ嗜好ニ適スルヨリ夏九年母トモ呼ブニ至レリ

此地方ニハ寛政四年、享和二年ニ原樹ノ果實ヨリ得タル種子ヲ蒔付ケタル古樹モ現存セリ

昭和二年四月八日史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ「史蹟及天然紀念物 大日比夏蜜柑原樹」トシテ指定セラレタリ

因ミニ夏蜜柑ノ大產地タル萩ハ文化ノ初年、江向ノ檜崎十郎兵衛ガ大日比ヨリ贈ラレタル果實ヨリ得タル種子ヲ播キタルヲ始メトス、明治ノ初年萩地方ノ士族ハ競フテ大日比ヨリ夏蜜柑ノ種穂ヲ需メ庭園ト畑地トヲ分タズ所有地一面ニ該樹ヲ栽培シ

其ノ收入ヲ以テ活路ヲ開キタルモノニシテ萩町内ニ於テモ植付反別二百四十餘町歩ニ達スルニ至レリ

○法船庵 大日比西圓寺抱ノ堂庵ニシテ同寺ノ西方約三丁ノ所ニアリ、同庵ハ東ニ小丘ヲ負ヒ土地高ク老樹鬱蒼トシテ蔽ヒ甚ダ幽邃ナル所ニシテ初メハ西圓寺住職法岸和尚ノ隱庵ナリシガ何時シカ尼僧ノ庵トナリ今モ尙ホ數十名ノ尼僧アリテ日夜念佛誦經ニ餘念ナシ

西圓寺出版大日比三師傳法岸和尚行業記ニ

師（法岸和尚）隱室の事を遺言せられけるは此かまへ我閑居の爲ばかりなればわづかに膝をいゝにて事たりぬれど、邊境の事ゆへ尼院も無く、尼僧の相續すべき依處なければ、歿後は彼等が住所とせまく思ふ故に、分限に過て廣くしつらひ置ぬ、猶掟書もなしおけば、一日なりとも如法に相續すべきやうにはからうべきよし遺命せらる

即掟書ニ云

尼菴ノ掟

一 男僧男子出入堅制禁の事

但し師用並に不淨所掃除の人等は制外の事

若無據要用ありて入來候はば、尼衆一同にて聞届、速に歸しまうすべく候遅々として無益の物語堅制禁の事、たとひ無據要用にても男僧男子は夜中の出入堅制、また親子の間たりとも止宿無用、暮六つ時を限りに出界せしむべし

又男僧男子にかぎらず惣して女子小兒等にても無用の人出入堅制禁の事

一 多葉粉制禁の事

一 勤行掃除等必怠慢あるべからざるの事

一 常に老病死を念して、稱名勇進すべし、假にも戲笑雜話堅制禁の事

右の條々堅く相守り、專修稱名勇進相續せしむべし、若違犯せしむる者においては速に離弟擯出せしむべき者也

寛政十年戊午七月

光譽性如判

○西圓寺 本寺ハ大日比ノ東端ニアリテ土地高燥仙崎灣ヲ瞰下シ風光明媚ナリ西面スル山門ヲ入ラバ本堂ハ南面ス、本寺ハ眞言宗本慶山天龍院西圓寺ト呼ビテ商人ニ

アリシガ紫津浦水道閉塞ノ爲、享祿天文ノ頃ニ至リ此地衰頽スルト共ニ廢寺トナリ  
 同地ノ觀音ヶ尾ト云ヘル地ニ小庵ヲ結ビテ本尊ヲ安置セリ、寛文八年上利某等本尊  
 ヲ大日比ニ遷シ後チ元祿九年上利一族及地下ノ人々相謀リ淨土宗ニ改メ一寺ヲ建立  
 シ讚譽奉隨長老ヲ請フテ中興開山トス、本寺ニハ名僧輩出セルヲ以テ名高カク遠近  
 ノ參詣人絶ユルコト無シ

○青蓮 西圓寺ノ西五六町ニ同寺ノ隱庵アリ、園内ニ二坪許ノ長方形ノ小池アリテ  
 青蓮生育ス、花瓣ノ數約百三四十枚、盛夏ノ候ニハ數十莖ノ美花ヲ着ク、外瓣青色  
 ヲ帶ブルガ故ニ此名アリ

○紫津浦灣ト商人 青海島ノ南岸ニアル漁業上重要ナル灣ニシテ蜿蜒トシテ南北ニ  
 伸ビ殆ド島ヲ二分セントス

灣ノ幅六町、延長二十五六町、水深二十尋ニシテ鬱蒼タル綠林ヲ以テ圍ム、灣頭ハ  
 舟越シト呼ビ延長二町、高サ四間ノ砂堤タルニ過ギズ

本灣内ニハ鯨族廻游スルコト稀ナラズ、往時ハ灣内ニ入り來ル鯨ヲ網ニテ灣口ニ扼  
 シテ捕獲セシモノニシテ現時モ往々此方法ニ據ルコト多シ

海豚ノ大群モ年々本灣内ニ廻遊シ來ルガ故ニ網ニテ灣口ヲ遮斷シテ捕獲スルヲ例ト  
 ス

其他 鯖 鯉 羽魚 鰯 鮪 しいら 等廻遊性魚屬ノ大群ヲ爲シテ此灣内ニ來ル  
 ハ實ニ珍トスルトコロナリ

斯ク廻遊性魚族ノ盛ンニ灣内ニ來ルハ舟越シノ地下ヨリ外海水ノ滲透シ來ルガ故ナ  
 ルベシ

本灣ハ往昔ニ於テハ海峽ニシテ現在ノ舟越ノ地點ヨリ外海ト自由ニ交通セシモノナ  
 リシガ、會々大暴風ノ際ニ砂洲ヲ以テ海峽ヲ閉塞シ遂ニ通島ト青海島トヲ接續シ海  
 峽ハ長キ灣ト一變セルモノナリ

灣ノ西岸ニ商人ト呼ブ地名アリ、往時ハ千戸ニ餘ル港ニシテ商業殷盛ヲ極メタレバ  
 商人トモ、商人村トモ呼ビタル地ナリシガ海峽閉塞ノ結果此地ニハ船舶ノ寄港スル  
 コト能ハザルニ至リタレバ漸次衰頽シテ享祿天文ノ頃ニ至リ住民ハ主トシテ仙崎方  
 面又ハ大日比附近ニ居ヲ移轉シ續テ文祿慶彞年間豊公征韓ノ帥ヲ起スヤ壯丁ハ水夫  
 ニ徵發セラレ殘レルハ老弱幼兒ノミナリシガ彼等モ遂ニ四散シ殷盛ヲ極メタル商人



ノ地ハ今ハ田地ト化シ今ハ一軒ノ人家モ認ムルコト能ハザルニ至リヌ

○通浦 此地ハ古來漁業ノ盛ナル所ナルモ半農半漁ノ者モ少ナカラズ、人家ハ數百戸相擔シテ略々小市街ノ觀ヲ呈シ通村ナル一村落ヲ爲セリ、通浦ナル名稱ノ古ク物ニ見エタルハ慶長五年ノ檢地帳ニ通島トアルモノナルコトハ既ニ之ヲ述ベタリ、豊公征韓ノ際ニハ多數ノ水夫ヲ徵發セラレタルコトアリ

○鯨墓 通浦向岸寺抱へ清月庵ハ舊名ヲ觀音堂ト呼ブ、此所ニ珍ラシキ鯨墓ナルモノアリ、墓石ノ高サ五尺五寸、臺石共ニテ總高サ七尺三寸、幅一尺四寸ニシテ表面ニ 南無阿彌陀佛 業盡有情難放不生 故宿人天同證佛果 側面ニ 元祿五年壬申五月 願主 設樂孫兵衛 池永藤右工門 早川源右工門 ト三行ニ銘ス

又タ鯨墓ト共ニ鯨位牌アリテ今ハ向岸寺ニ保管ス、其高サ一尺六寸臺共總高サ二尺六寸、幅四寸、黒漆塗、金文字ニテ表面刻字鯨墓ト同文字、右側面ニ 元祿五年壬申五月十二日 隱居念譽上人 現住松譽上人 願主山田孫三郎 池永藤右衛門 設樂孫兵衛 ト三行ニ下ニ 諸檀那中 ト彫ル

モト過去帳無カリシガ文化二年ヨリ天保十五年迄ノ鯨過去帳一冊アリテ表紙ニ「弘

化二巳年ヨリ 鯨鯨群類過去帳 觀音堂」ト記シ第一葉ニ 一日 宗波乘月弘化三年十二月、觀月良雲同年同月、第二葉ニ 二日 大山利生弘化二巳十二月、花兒乘船嘉永元申正月、緣月殘月嘉永三戌正月 ト記シ全葉三十四ニシテ合行八十四行ノ法名ヲ録ス

毎年六月廿九日ヨリ七月二日迄三日三夜間通村ノ漁人及其家族觀音堂ニ集マリ誦經念佛シテ法要ヲ營ミタルモノナリ 鯨墓背後ニアル空地ハ元錄五年ヨリ明治初年頃迄鯨解體ノ際ニ得タル胎兒ヲ埋メタル所ナリ

青海島近海ハ鯨族ノ廻遊多カリシガ故ニ捕鯨業ハ極メテ古キガ如キモ沿革明カナラズ、組織立チタルモノハ藩主ガ延寶元年鯨組取立ニ始マル、即チ 寬寶年間ノ由來書ニ

正福寺（通浦にあり）は無縁寺にて當地下中の祈願所に付、往古より本堂庫裡ともに當浦より修補仕來り候、又延寶元丑年鯨組取立の時分、目論差起、浦中當寺へ集り於藥師前闈取仕候へば芋網取立候様にと靈驗有之候に付其時分御職役毛利隱岐様

御代官三戸市之允殿、御奉行寺内彌次右衛門殿、御役中早速取立相成夫以來追々利生有之鯨組繁昌今に至り例年於藥師前鯨取の漁人不殘通夜等仕祈願を籠申候、就中鯨を芋網にて取候由に候、依之尙々建立修補等地下高より相納來、國家安全當浦豐饒の祈願長日怠り不申云々

又々

向岸寺抱清月庵觀音厨子に左の文字ありしと云ふ

「延寶七未年八月十八日向岸寺五代讚譽代寄附 當浦中爲二世安樂并鯨菩提」

又々

向岸寺傳ニ

當寺五世讚譽上人志願有て即一堂を造立し老極に及び此地に隱居し朝暮無怠慢鯨鯢一切魚鱗の群品往生安樂の回向有之、享保十九年寅六月十六日春秋百六にして遷化夫より以來打續き供養無怠、毎年の鯨回向も當浦恒例にして此堂にて執行仕候云々

◎ 西 面

○花津浦 青海島ノ西端ノ東西ニ連ナル海岸線ガ北方ニ向ツテ屈折セントスル所ヲ花津浦ト云フ、海岸ニ近ク鼻剱岩アリ、仙崎方面ヨリ海岸ニ沿フテ花津浦沖合ニ漕出ヅレバ深川灣口トナリ、北ハ渺茫タル日本海ニ面シ風向一變シ波高ク潮勢速シ天文十九年八月國主大内義隆ハ叛臣陶晴賢ノ爲ニ山口ヨリ追ハレテ九州ニ渡リ再舉ヲ謀ラントシテ仙崎ニ來リ船ヲ艤シテ西ニ向ツテ漕ギ出デタルガ風波高フシテ進ムヲ得ズ、怨ヲ吞ンデ船ヲ返シタルハ此所ナルベシ

大内義隆記

晦日の夜には二條殿若君と御曹子を先に立て義隆もかち地にて長州岩永へぞ落ち玉ふ、足のつまさきは血にそめてくれないを踏よるの道の行きもやられぬ事なれば爲方もなく思し召し、處に岡部右衛門尉案内者にて綾木と云所にて夫駄馬二疋奪とり御兩人をのせ申、岩永の即心菴に着玉ひつゝ同晦日の夜は爰に御出あり、セン崎と云船津よりぞ舟に乗玉ひ二三里ばかり漕出る、御運つきぬる故とかや沖より向ふ地風に浮き立つ波も荒くして櫓かひも更につゝかねば船頭舟子あきれつゝ爲方なうぞ

見えにける、義隆仰けるやうは空敷海に沈みつゝ底のもくづとならんよりは大寧寺へ漕かへり自害せんと玉ひぬ、御供の人々は上意げにもと思ひつゝ本の浦へぞ歸りける 云々

隱徳太平記

かくて義隆卿法泉寺を出給ひて 糸伊根、朝倉、大坂越、八小路 の谷を足に任せて落行給ふ(中略)秋好、岩淵、加麻など云所を経て深川の大寧寺を左に見、大津の三隅の松原を過給て通島の後根壹岐守と云船頭を頼み落行給けり、壹岐守は若州へ赴て留守也ければ力無く浦人共に船奉れと云けれ共落人と見て船奉る者もなし上下は如何せんと惘れたる所に後根が家人等普代相傳の主君かゝる有様に成給ふて見奉ながら舟賃不申事やはある明日は陶より罪科に被行共任地とて小船一艘賃申ければ人々悦び取乗て二三里が程出したり、此所は海上慢々として邊際もなく入日の影は波に沈む其方は唐土に續きたれば常に潮早く波高くして舟路危き所なるに義隆卿の運の極めにや俄に空搔曇り雲の脚矢よりも早く北風頻に吹出怒浪天に翻り舟已に覆らんとせしかば義隆卿宣けるは如何汝等何とか思ふ大内程の者が運盡家人の爲

に國を追出され矢の一つも不射違して落ること末代の瑕瑾なれば今に於ては法泉寺にて如何にも不成事千悔万悔也殊に舟にて逃去海底の水屑と成たりなど云れんは惡名は泥土に加土なるべし、いざとよ是より舟漕戻し本の渚に上て追手近付ば一矢射て戦死すべし若敵未追付ずば深川の大寧寺へ入て彼地に於て自害すべし彼等は石屋和尚の開山として清淨結戒の精舎也、骸を佛法繁榮の地に埋みなば永く修羅道の苦患をや免れなんと宣ければ供奉の面々此儀に同じ心細くも本の地に漕歸る 云々

中國治亂記

陶方の先手柿並と云兵一千餘騎にてときを作り攻來る冷泉太夫判官隆豐爰をばそれがし防矢可仕岩永へ御除き可然と申により同廿九日義隆卿は岩永へ被退給爰は岡部右衛門太夫隆景が領地なりければ隆景御供して恩心寺と申寺にて御湯づけを進め奉り扱て小荷駄を岡部才覺して夜明方に千戸崎へ落し奉る、此處に後根壹岐と申す船頭あり是を頼み船を才覺して皆のり玉ふ公家衆達諸共雜兵六十人也、實に天運盡果玉ひけるにや一里程こぎ行て風忽ち起り船も悉く本汀へ吹戻しければ是非に不叶大寧寺へ 云々

大内義隆記及隱徳大平記ニハ仙崎ヨリ二三里バカリ沖合ニ漕出デタリト云フモ二三里沖合ハ日置村二位濱ノ沖合又ハ宇津賀村津黃ノ沖合ニ當レルガ故ニ二三里ト云フハ距離ヲ誇大ニ面白ク表ハシタルモノニテ中國治亂記ニアル一里程漕行キ云々ト云フヲ正當トス、仙崎港ヨリ花津浦迄ノ距離一里許ナリ

○鼻列岩 花津浦ノ一角ヨリ海中ニ差出デタル一大岩壁ニシテ東西ニ伸ビ幅四十間高サ十三間許ナリ、岩ノ中央ニ洞門ヲ有スルガ故ニ鼻列岩ト呼ブ、此洞門内ニハ暗礁アルガ故ニ舟ヲ通過シ難シ

○東風瀬 コチ瀬ハ鼻列岩ノ西北角ニ近ク横ハル危険ナル海礁ニシテ、滿潮ニハ隠レ、干潮ニハ水面ニ表ハル、昔素盞尊出雲ヨリ韓國ニ渡リ給フ御途次會々風ナク舟進マザリシカバ此瀬上ニテ東風ヲ祈ラレシ所ナリト傳フルモ果シテ信ナリヤ否ヤヲ知ラザレドモ舟行甚ダ危険ナル位置ナレバ舟人ヲ警メンガ爲メノ古人ノ好意ナルベシ

○黄金岩ト團子岩 鼻列岩ノ北方ニ當リ海岩ニ沿フテ危岩怪礁起伏參差シテ甚ダ奇觀ヲ呈ス、就中金子塔形ヲ爲スモノヲ黄金岩ト呼ブ、岩上ニ徑八尺許ノ球狀ノ巨岩

アリ、形ノ似タルヨリ之ヲ團子岩ト呼ブ、崖下ヨリ仰ゲバ恰モ小豆一粒ヨリモ大ナラザルガ如シ、嘗テ一冒險家アリ岩ニ攀デ試ニ之ヲ突キ墜サント努メタルコトアリシモ毫モ動カザリシト云フ

○長網ノ絶壁 黄金岩ニ北隣スル高サ二百尺許ノ恰モ屏風ヲ立テタルガ如キ大岩壁ヲ所在地ノ名ニ因ミテ長網ノ絶壁ト云フ、岩壁ニハ種々ノ植物盛ニ着生シ奇觀ナリ此附近ノ海中ニハ大小ノ岩礁起伏散在シ鮑及さゞえ多キヲ以テ名高キ所ナリ

○高山 本島ノ西北隅ニ聳テル高サ三百二十米突ノ尖頂ノ山ニシテ頂上ハ本島最高ノ地點ナリ、全山綠氈ヲ以テ蔽ヘルガ如キ草山ニシテ海岸ヨリ約四十度許ノ急傾斜ヲ爲シテ一直線ニ山頂ニ達スルハ偉觀ナリ、頂上ハ往時捕鯨ノ際ニ於ケル見張所、日清戰爭及日露戰爭ノ際ニハ陸軍ノ望樓アリタル所ナリ、此山嶺ハ漁業者ノ目標ト爲サンガ爲メニ古人ガ植ヘ置ケル巨松數十株アリシコトアルヨリ別名ケシ坊頭山トモ呼ビタルモノナリ

○小瀬戸 本島ト本島ノ屬島ナル笹島トノ間ニアル瀬戸ニシテ中央ニ一大岩柱ノ聳テルアリ之ヲ壁岩ト云フ、滿潮ノ時ニハ大小ノ舟ハ自由ニ交通シ得ラル、モ干潮時

ニハ小舟ニアラザレバ通過困難ナリ、此附近一帯ノ地質ハ全部石英斑岩ヨリ成リ含有スル鐵分ノ酸化ニ依リテ全部赫色ヲ呈ス

○笹島 青海島西北端ニアル面積數町歩ノ小サキ屬島ニシテ北面ニハ斷崖絶壁ヲ表ハシ洞門多ク波濤ノタメニ甌穴ヲ造リ中ニ球狀ヲナス杵石ヲ有スルモノ少ナカラズ西北岸ニハ數十個ノ岩礁岩柱起伏ス、仙水、千人魔府、筍鼻、黄金洞等ハ本島ノ名所ナリ

○仙水 笹島ノ北崖ニ洞窟アリ洞道ノ長サ二十餘間ニシテ恰モ隧道ノ如キ状態ヲ呈シ南端ニ百坪許ノ圓形ノ小池ヲ作ル之ヲ仙水ト云フ、波穩カナル時ハ容易ニ小舟ヲ操入レ得ベシ、打寄スル潮水ハ洞門ヨリ去來シテ池中ノ水絶ヘズ増減ス、往々巨魚ノ迷フテ此池中ニ遊ブコトアリ、或ハ巨大ナル鮑又ハさゞえヲ見ルコトアリ

○千人魔府 笹島ノ西岸ニ當リ巨岩伏起シ岩頭ニ一本松ト呼ブ孤松アリ、其北麓ニハ岩石ノ崩壞シテ其大塊重々磊々トシテ海中ニ堆積スル所アリ、是レ數十年前捕鯨業ノ盛ナルトキ先大津方面ノ多數ノ捕鯨船ハ風波ヲ避ケントシテ洞内ニ入りタルニ洞ハ崩レテ多數ノ船ト多數ノ生靈ハ其儘海底ニ沈メラレタル儘今日マデ奈何トモ

スル能ハザル所ナリ

○筍ノ鼻 青海島ノ西北端ニアル巨大ナル岩柱ニシテ突兀トシテ海中ニ聳立スルコト三百餘尺、其形狀ノ似タルヨリ此名アリ、別名高島トモ呼ブ、隣接スル岩礁上ノ石柱ヲ小高島ト云フ

### ◎ 北面

青海島ノ北面ハ日本海ノ怒濤ニ直面シ斷崖絶壁、洞門、石柱、岩礁ノ奇勝ヲ作り本島奇勝ノ主要部ナリ、故ニ此部分ニハ名勝極メテ多シ

○赤瀬 笹島ノ北岸ハ石英斑岩ノ斷崖及岩礁多ク含有スル鐵分酸化ノ爲ニ全面赫色ヲ帶ブルガ故ニ此名アリ

○黄金洞 笹島ノ北岸ニハ洞門極メテ多シ、就中巨大ナルモノヲ黄金洞トス、洞口ハ北面シ日本海ノ怒濤去來シテ岩ニ激シ霧々タリ、波靜カナル日ニハ容易ニ小舟ヲ操リ入ル、コトヲ得、洞内ハ洩レ來ル微光ニテ洞壁黄金色ヲ呈スルガ故ニ此名アリ此附近ニハ波浪ノ爲ニ作レル甌穴アリテ中ニ球狀ヲ爲セル杵石ヲ有スルモノ多シ

○夫婦洞 大サ殆ド相等シキ二個ノ相並ベル北面スル大岩窟ニシテ怒號スル巨濤ハ去來シテ常ニ囂々タル響ヲ起ス、洞内ニハ小舟ヲ操入レ得ルコト三十餘間ニシテ岩石ノ石理甚ダ美觀ヲ呈ス、洞ノ天井ニハ多數ノ岩燕棲息ス

○平家臺 花崗岩ヨリ成ル面積三四町步、周回五六町ノ稍々楕圓形ヲ爲ス岩臺ノ海中ニ突出スルモノニシテ陸地ト僅ニ離ル、臺上ニ數個ノ砂岩ノ小丘ヲ有シ臺上ノ岩面ニ明瞭ニ「カレンフエルド」ヲ表ハスハ地學上注目スベキモノナルベシ、臺上ヨリノ展望ハ廣濶ニシテ此所ニ馬ノ蹄、馬盃ナド呼ブ所アリ、此所ハ壇ノ浦源平ノ戰爭ニ破レタル平家ノ殘黨ノ遁レテ此岩上ニ漂着シ力盡キテ自刃セル所ナレバ平家臺ト呼ブト傳フ、此臺上ハ釣魚ノ好位置ニシテ二尺ニ餘ル鰯ヲ釣り得ルコトアリト云フ、臺ノ東面ニ當リ深キ洞穴アリテ舟ヲ操入レ得ベシ臺地ニ因ミテ平家洞ト云フ

○紋岩 平家臺ニ南隣スル岩壁ノ面ニ種々ナル形狀及大サノ紋形ヲ表ハスモノニシテ岩石學上注意スベキ地點ナリ

○駒繫ギ 岩壁ニ數個ノ洞門相隣接スルモノニシテ恰モ廐ノ如キ形狀ナルガ故ニ此名アリ

○白旗岩 一名源氏ノ白旗岩トモ云フ、幅四尺、延長四十間許ノ白色ヲ呈スル石英斑岩ノ岩脈ガ黒色ノ砂岩中ニ表ハル、モノニシテ遠望スレバ宛ラ白旗ノ翻レルガ如キヲ以テ此名アリ

○觀音瀨 奇形ヲ呈スル石柱ノ海中ニ突乎トシテ聳ユルコト九十尺許ノモノニシテ岩臺上ニ直立ス、其形狀ハ遠望スレバ恰モ蟠マレル巨蛇ノ首ヲ高ク差シ伸バシタルガ如キガ故ニ蛇岩トモ云フ、觀音瀨ト呼ブハ隣地ニ觀音洞ト呼ブ所アルガ故ナリ

○觀音洞 觀音瀨ニ向ツテ突出スル一大岩壁ニ於ケル洞穴ニシテ波靜カナルトキハ容易ニ小舟ヲ操入レ得ベク洞内ハ次第ニ廣濶トナル、斯クテ幽玄ノ内ニ觀音ヲ安置セルガ如キモノアルヲ洞外ヨリ洩レ來ル微光ニテ辛フシテ認め得ラル、ガ故ニ此名アリ、斯テ舟ハ遂ニ他ノ洞口ニ抜ケ出デラル

○大平場臺 海上ニ横ハル多數ノ岩礁ニシテ就中一大岩礁アリ、頂上平坦ナルガ故ニ此名アリ、コノ附近怒濤盛ンニ去來シテ岩ヲ嚙ミ其音殷々囂々トシテ甚ダ壯觀ナリ、陸岸ナル峭壁ニ一洞門アリ之ヲ横道洞ト云フ

○石門 青海島奇觀中屈指ノ奇觀ニシテ陸岸ヲ距タル十數間ノ沖合ニ當リ海中ヨリ

一對ノ石柱垂直ニ兀立スルモノナリ、其高サ何ツレモ六十尺許ナリ、陸岸ハ玉ノ如キ美麗ナル礫ヲ以テ被フ、石門ノ光景ハ陸岸ニ上ボリテ臨ムヲ最モ佳トス

○和田ノ濱 此濱ハ舟中ヨリ臨メバ何等價値ナキガ如キモ玉ノ如キ礫砂ニ被ハレタル岸ニ上ボラバ明媚ナル風光ト豪壯ナル奇觀トヲ臨ムヲ得ル屈指ノ勝景ナリ、西方ニハ遙ニ大平場臺、觀音瀨、平家臺、筍ノ鼻等ヲ臨ムベク、東方ニハ山見鼻ノ斷崖絶壁連ナリ、前面ニハ一大巨岩ニ洞門ヲ有スル和田ノ鼻線ト呼ブ奇岩横ハル、此所ハ探勝者ノ上陸シテ休憩スル者多シ

○大門小門 島ノ北岸ニ近ク聳テル山見ノ鼻ハ山ノ如キ一大岩壁ニシテ本島トノ間ニ延長二町許ノ狭キ水道ヲ造リ小舟ハ容易ニ通過シ得ベシ、此所ニ島内屈指ノ奇觀タル大門及小門ト呼ブ二ツノ石門アリ、大門ハ高サ十間、小門ハ高サ六間ヲ超ヘ甚ダ偉觀ヲ極ム

○長濱群洞 東西ニ長ク連亘セル長濱ノ斷崖絶壁ノ根脚ハ絶エザル海蝕ヲ受ケテ大小ノ洞門九十有餘ヲ造リタルモノニシテ、其洞門ハ内部ニテ相連絡スルモノ多シ

○壁岩 仙崎町ニモ通村ニモ壁岩ト呼ブ絶壁アリ、此所ニアルハ仙崎町ノ壁岩ニシ

テ整然タル岩壁ノ連結スルコト數丁ニ達ス

○舟越シ 高サ四間、延長二町ノ砂洲ニテ外海ト内海ナル紫津浦灣トヲ遮斷スルモノナリ、此所ハ往昔ハ水道ニシテ北海航行ノ船舶ノ自由ニ往來シ紫津浦灣内ナル商人ト呼ブ地ニ寄泊セシモノナリ、詳細ハ既ニ紫津浦灣ノ部ニ述ベタリ

○瀨叢 數百ノ奇岩怪礁或ハ立チ或ハ伏シ甚ダ奇觀ヲ極ムルモノニシテ就中立瀨ト呼ブ二本ノ大石柱ハ威風堂々タルモノニシテ海中ニ聳立ス、此附近一帯ヲ十六羅漢トモ呼ブ、變裝行列ト云フモノハ數本ノ奇形ヲ爲ス岩柱列ヲ爲シ、先ナルモノハ陸ニ上ボリ後ナルモノハ尙ホ海中ニアリテ恰モ海底ヨリ怪物ガ行列ヲ作ツテ陸ニ上ボリ來ルガ如シ、一度ヒ風波起ラバ白波岩ヲ嚙ンデ波ハ雪ノ如ク囂々タル響ハ耳ヲ聳セン計リニシテ偉觀例フルニ物ナシ、陸岸ニハ玉ノ如キ砂礫堆積シテ實ニ美觀ナリ此海岸ヲ紫津ヶ浦ト呼ブ、島内屈指ノ勝景ナリ

○象ノ鼻 變裝行列ノ少シク東方ニ當リ海中ニ突出スル巨岩ニシテ數個ノ洞門ヲ有シ其狀態恰モ巨象ガ海中ニ立チテ長鼻ヲ垂レ水ヲ吸フガ如キ有様ナルヨリ此名アリ

○白壁 幅五尺、高サ十三四尺、延長二十餘間ノ白壁ノ如キ狀態ニ石英斑岩ノ岩脈

ガ取残サレタルモノニシテ地學上注意スベキモノナリ

三八

○釣井瀬 一海礁ノ西側ニ當リ潮水ノ進退ニ依リ岩面ヲ浸蝕シテ造リタル一ツノ甌穴ニシテ直徑十二三尺、深サ十四五尺ノ井戸狀ヲ爲セル所アルガ故ニ之ヲ釣井瀬ト呼ブナリ

○山島 二島ヨリ成ル、大サハ異ナレドモ其形狀甚ダ酷似ス、陸岸ニ近キヲ小山島、沖合ニアルヲ山島ト云フ、何レモ頂上ニ十數株ノ倭松ヲ生ズ、冬期西北利亞ノ東部ヨリ越冬ノ爲ニ來ルヲみ驚此附近ヲ中心トシテ飛翔スルヲ見ルコト稀ナラズ

○島見門 海中ニ突出シタル一大岩壁ニ長方形ノ大ナル洞門ヲ造リタルモノヲ島見門ト云ヒ、此所ハ容易ニ遊覽船ヲ通過シ得ベキ所ニシテ東方ヨリ洞門ニ入ラバ前面ニ山島ノ横ハル光景ヲ望見シ得ベキガ故ニ此名アリ

○高崖 海面ヨリ直立四百餘尺ノ屏風ノ如キ堂々タル大岩壁ニシテ頂上ハ通村最高地點ノ山頂トナリ雄大ナル光景ナリ

○潮場ノ鼻 一大岩角ノ海中ニ突出シ之ヲ繞リテ大小ノ奇岩怪礁數百個起伏參差ス、多數ノ海鳥此礁上ニ來ツテ憩フコト多シ

○鳥帽子岩 一大岩壁ニシテ陸岸ヨリ遠ク海中ニ突出ス、頂上ニ鳥帽子ノ如キ形狀ヲ爲セル岩角アルガ故ニ此名アリ

○佛岩 海中ニ一大岩臺ノ横ハルアリテ其上ニ恰モ佛像ノ如キ岩柱直立セリ、其形狀ノ似タルヨリ此名アリ、昔時捕鯨業ノ盛ナリシトキ見張所ヲ此岩臺上ニ置キタルコトアリシガ會々起レル地震ノ爲ニ直立セル佛岩ノ動搖スルコト甚ダシク見張セル番人等々各々悲鳴ヲ擧ゲテ海中ニ飛込ミタルコトアリ、後日再ビスカル事ニ遭遇スルヲ避ケンガ爲ニ之ヲ折リ去ラントスルコトニ一決シ佛岩ニ巨繩ヲ引懸ケ捕鯨船二十餘艘總人員二百餘人ニテ力ヲ併セテ漕ギタレドモ遂ニ折リ取ルコト能ハザリシト云フ

○屏風岩 海岸ヨリ東北ニ面スル延長百二十間、高サ六十間許ノ略々半圓狀ヲ呈スル一大岩面ニシテ全ク垂直ニ聳立スルコト恰モ屏風ヲ立テタルガ如キヲ以テ此名アリ

三九



◎ 東 面

青海島ノ東面及大島及笹島ノ東岸部ニシテ、就中、大島ノ東岸ハ青海島奇勝中第一位ノ奇觀タリ

○松島 青海島ノ東北端ニシテ數十ノ奇岩怪礁起伏シ矮松岩壁ニ生ヅルガ故ニ此名アリテ屈指ノ奇勝タリ、就中、東端ニ兀立スル岩柱ハ偉觀ニシテ岩壁ニ多數ノ奇松ヲ生ズ、此所ニ凱旋門及ドヲ巾岩等アリ

○南堂猿江リ 島ノ東面ヲ南堂ト云フ、此所ニ南北ニ連亘セル堂々タル大絶壁アリ、猿モ江ラン計リノ岩壁ナレバ此名アリ

此所ヲ過ギテ南下スレバ西方ニ當リ遙カニ家屋ノ連擔スルヲ見ル、是レ通浦ノ背面ナリ

○帆留口 青海島ト其屬島ナル大島トノ間ヲ帆留口ト云フ、此所ハ三隅灣ト外海トノ境ニシテ中央ニ女瀬ト呼ブ岩礁アリ、帆留口ノ絶壁ハ實ニ奇觀ナリ、此瀬戸ハ往時捕鯨業ノ盛時ニ於テハ鯨群ノ通路ニ當レリ

帆留口ヲ西ニ向ハバ青海島南岸ニ於ケル勝地トナリ海上二里許ニシテ仙崎港ニ歸着

スルヲ得、帆留口ヲ少シク東ニ向ヒ南下スレバ大島及笹島ノ雄大ナル風光トナル、夫ヨリ西スレバ仙崎港ニ歸ルヲ得

○大島 此島ハ笹島ト共ニ三隅灣ノ東口ヲ扼シ、東面スル部分ハ斷崖絶壁ノ奇勝地ニシテ青海島勝景中ノ第一位ニアルモノナリ、島内ハモト牛ノ放牧場ナリシガ今モ二三頭ノ殘存スルモノアルガ如シ、島ノ東半部ハ濃紫色ノ輝綠凝灰岩ヨリ構成セラ、ガ故ニ蒼海ノ色ト相俟ツテ風光明媚雄大ナリ

○金冠リ 直立四百餘尺ノ大絶壁ニシテ東面シ堂々タル光景ナリ、明月ノ夜ニハ岩頂ハ月光ヲ反射スルガ故ニ古來冲合ニ舟ヲ操ル漁人等ハ此絶壁ハ黄金ノ冠ヲ着ケタルガ如キ尖峰ナリトノ意味ニテ金冠リト呼ビ來レルモノナリ、此絶壁ノ偉觀ハ長門峽第一位ノ奇觀タル切籠ノ峻峰ヨリモ遙ニ勝レリ、冬期ハ巨鷲ノ來ツテ此附近ヲ飛翔スルコトアリ

○大島洞門 一大岩壁ニ洞門ヲ有スルモノニシテ波濤去來シテ囂々タル音ヲ反響スルヲ特徴トス

○龍宮 岩壁ノ間隙ヨリ辛フジテ舟ヲ操リ入ルレバ舟ハ岩角ヲ巡リ巡リテ再ビ岩ト

岩トノ間隙ヨリ外海ニ出ヅルヲ得ベク實ニ奇觀ヲ極ム

○マタガイ 笹島ノ北端、大島トノ間ニシテ此所ニ多數ノ岩礁起伏シ多數ノ海鳥岩上ニ憩フヲ見ルコト多シ

○笹島ノ佛岩 笹島ノ東岸ハ巨岩怪石疊々タリ就中、一岩柱ノ突乎トシテ聳ツモノアリ其形ノ似タルヨリ此名アリ

### 島内ノ生物

島ノ生物ヲ一々列舉センハ其煩ニ耐ヘザレバ其主要ナルモノ、ミヲ選ビ左ニ之ヲ述ブベシ

島ノ雜木林中ニハ多數ノ猿棲息シ其大群ノ往々海岸ニ出デ、食ヲ賚サリ或ハ斷崖絶壁ニ戯ル、ヲ見ルコト多シ、猿ハ風強キ日ニハ深林中ニ潜ンデ出デ來ラザルヲ常トス

山見島、紫津ヶ浦、金冠リ附近ニハ冬期ニ當リ西比利亞ノ東部ヨリ海鷲ノ來ツテ越冬スルコト稀ナラズ

青海湖岸ナル礫堤ノ松林中ニハ秋期群雁ノ來ルコトアリ

同湖畔ニハ往々白鷺ノ群ヲ見ルコトアリ

島ノ背面ニ於ケル人ノ近寄ルコト能ハザルガ如キ聳立スル岩柱ノ頂上ニハ鵝ノ巢ヲ造レルモノ多シ

其他鴨、鳶、鶺鴒ハ極メテ多ク近海ニハ鯨及海豚ノ來ルコトアリ

植物トシテハ

暖地性ノモノヲ主トシ瀬戸山ノ中腹ニ於ケル雜木林中ニハ橘ノ自生地アリ、又タ大日比ニハ中半人爲的ノモノナレドモ夏蜜柑原樹アリ、奇勝ニ於ケル斷崖絶壁ニハ到所だるまぎく多數ニ着生シ秋期淡藍色ノ美花ヲ着ク。(完)

14.5  
127

昭和三年三月廿五日印刷  
昭和三年三月卅一日發行

(非賣品)

山 口 縣

山口縣吉敷郡山口町道場前九番地  
印刷者 小 澤 兵 造

山口縣吉敷郡山口町道場前九番地  
印刷所 山 口 響 海 館

145  
127

NO.

**"F-M"**  
**PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 24.cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

**F. MAMIYA & CO.**

OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

終